

『歴代寶案』校訂本第一冊（活字本）の刊行に際して

沖縄県教育委員会 教育長 金城 弘昌

沖縄県は、かつて琉球王国として、中国（明・清）との冊封・朝貢体制を軸に、その地理的優位性を發揮してアジア諸国と交易し、大きな影響を受けながら、独自の歴史・文化を形成してきました。十四世紀から約二〇〇年の間、琉球は中国、日本、朝鮮、シヤム・パタニ（現在のタイ）、マラッカ（現在のマレーシア）、スマトラ・パレンバン・スンダ・ジャワ（以上現在のインドネシア）、安南（現在のベトナム）等の国々に船を派遣し、各地の産物を中継する交易を展開し、東アジアの一大貿易拠点として発展しました。

『歴代寶案』は、琉球がこれらの諸国と交わした一四二四～一八六七年にわたる外交関係文書を集成したものです。王府は、長く久米村の天妃宮に保管されてきた外交文書の破損・散逸を危惧し、外交文書作成等を専任する久米村の人々にその編集を命じました。こうして一六九七年に第一集四九卷（一四二四年～一六九七年までの文書を収録）が二部作成され、王府と久米村にそれぞれ保管されることになりました。その後、第二集二〇〇卷・第三集一三卷（一六九七年～一八六七年）が編集され、ほかに別集八冊（うち第二集目錄四冊）が編集されています。王府に保管された『歴代寶案』は廃藩置県の際に明治政府に貸し出されたとされていますが、その所在は依然として不明です。一方、久米村に保管されたものは、昭和八年（一九三三）旧県立図書館に移管されましたが、去る沖縄戦で散逸しました。幸いなことに、戦前、この久米村のものから、影印本や写本が数種残されていました。

『歴代寶案』は、沖縄の外交史料であるばかりでなく、当時の東アジア世界の動向も知ることができると第一級の同時代史料です。沖縄県は、平成元年度（一九八九）から、現存する各種の影印本や写本をもとに『歴代寶案』校訂本・訳注本の編集事業に着手し、平成三年度（一九九一）から刊行を開始し、これまでに校訂本全十五冊、訳注本十四冊を刊行しました。この編集事業の目的は、『歴代寶案』を一般の読者に広く普及することで、琉球王国交流史の研究に役立て、あわせて国際社会に向けて沖縄の歴史・文化発信の基礎資料として活用することにあります。

本年度は、校訂本第一冊（活字本）を刊行いたします。『歴代寶案』第一集にあたる第一冊・第二冊は、久米村に保管されていたものを直接撮影した青焼き写真が比較的よく揃っていたことにより、影印本として一九九二年に刊行しましたが、その後、第二集第三冊以降の活字出版が進むにつれ、第一冊・第二冊についても活字化が計画され、このたび歴代寶案補遺編として、『歴代寶案』校訂本第一冊（活字本）を刊行することになりました。

『歴代寶案』第一集は、第二集以下がほぼ年代順に編集されているとは異なり、内容によって分類されています。本書には永樂二十二年から康熙三十五年（一四二四～一六九六）の詔勅（明・清両朝の皇帝からの文書）・礼部咨（外国の朝貢を取り扱う中央官庁の礼部からの文書）・福建布政使司等咨（琉球が朝貢する際に入港する福州を管轄する福建布政使司からの文書）および表奏（琉球国王から中国皇帝に奉呈する文書）・国王咨（琉球国王から中央の礼部や福建布政使司等への文書）等、琉球国王の冊封、朝貢規定等の措置、朝貢をはじめとする各種案件の処理に関する文書が収録されています。また薩摩島津氏による琉球侵攻や明清交替期における琉球と中国のやりとりなど興味深い内容が含まれています。

最後に、本書の刊行につきましては、沖縄県歴代寶案編集委員会および同作業部会の御協力を得ました。また、本書の監修を担当された池谷望子・内田晶子先生をはじめ、関連史料を所蔵する各機関に御尽力・御協力いただきました。深く感謝するとともに歴代寶案編集事業に一層の御理解と御協力をたまわれますようお願い申し上げます、発刊のことばといたします。

令和三年（二〇二一）三月